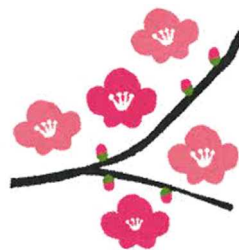


この資料は総代会議にお持ちください



2022年

春の総代会議資料

1. 開催趣旨

2021年度の事業や活動の進捗状況の報告、2022年度の基調・重点課題について提案し、総代会議案の検討に向けて総代同士で意見交換を行うことを目的に開催します。コロナ禍の中でくらしがどう変わったのか、生協利用を通じて「よかった点」などお一人おひとりの声を大切に総代同士で共有しながら意見交換をすすめていきます。

2. 会議次第

開会、挨拶

- (1) 2021年度の事業・活動の進捗状況の報告
- (2) 2022年度方針の基調・重点課題の提案
- (3) ブロックごとの2021年度の取り組みについて

意見交流

まとめ

閉会后、諸連絡等

開催日、時間は事前にお送りした開催の一覧表でご確認ください。

*新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、会場を見直しさせていただく可能性もあります。その場合は、都度お知らせします。ご了承ください。



生活協同組合 **コープあいち**

2021年度のまとめ

1. コロナ禍について

- (1) 新型コロナ感染症については、感染拡大防止を最優先に事業・活動をすすめてきました。
- 愛知県では4月にまん延防止等重点措置の発令に続き、緊急事態宣言が発令。オリンピック開催後急速に感染者が増え8月末から緊急事態宣言が発出されました。
- (2) 9月に入りコープあいちでも感染者が発生しました。
- 毎日対策会議を開催し、現場の状況を把握し必要な対策を行い、福祉デイサービスの閉鎖も4日間の休業で収めることができました。
 - 感染拡大防止や職場クラスター発生防止のために、300件を超える自主PCR検査を実施し、ワクチン接種の推奨として接種補助を行いました。
 - 22年1月に入り、感染者、濃厚接触者など自宅待機者が急増しました。随時、対策会議を開き、感染予防の徹底と、事業の継続に向けての対策を行いました。

2. 事業について

- (1) 総事業高は、1月度累計で549億円、予算比105.5%、前年比97.7%でした。
- 宅配は、コロナ禍で必要とされる「商品」を軸に利用定着と仲間づくりを推進しました。利用人数は9月4週から昨年を超え、仲間づくりはCM等の効果で前年を超過しました。
 - 店舗は、地場商品の強化、店長会を中心に商品の普及活動、LINEの活用などに取り組みました。来店者数は、前年比96.8%と厳しい結果となりました。
 - 福祉は、介護度別の利用者増と利用者にあった介護の提案に取り組み、一人当たりの単価が向上し事業収入を確保でき、黒字経営です。人材不足が継続して課題です。
 - 共済は、生協全体の加入目標を達成することができました。

3. 組合員活動について

- (1) 組合員活動はガイドラインに沿って定例会のみを行いました。
- 若い層を中心にオンラインの定例会が行われました。虹の会※のオンライン学習会やSNSを使った学習会の参加者が広がりました。[※生協の取引先のみなさんで構成される会](#)
- (2) 商品活動は地場産地の農産品の取り扱いやセンター企画が進みました。
- ブロック毎の職員研修も兼ねた商品動画づくりも進み、ブロック別の商品モニターはレシピ提案などたくさんの声をいただきました。

4. 管理について

- (1) コロナ対策や新たなリスクへの対応を横断的に行いました。
- 採用と学習教育、新人事制度づくり、ダイバシティ&インクルージョン※、安全運転教育、内部統制、BCP※、法改正対応など職場運営や効率的な働き方に取り組みました。[※ダイバシティは多様性、インクルージョンは受容を意味します。](#) [※BCP:事業継続計画](#)

5. 経営について

- (1) 総事業高、供給高、経常剰余金※は予算達成しましたが、店舗の黒字化や後方コスト削減が課題として残りました。[※経常剰余金 税金を支払う前の最終剰余金](#)
- (2) 2年間のコロナ禍による影響で、コミュニケーション力、継続利用の推進、来店客数の分析と対応力、ブロック内での事業間連携、組合員活動のフォロー活動が弱くなりました。
- (3) コロナ感染拡大は予測のつかない状況ですが、ポストコロナを見据えて事業基盤強化に向けた取り組みが必要とされる状況です。

1 重点課題の振り返り

第4次中期方針の4つの柱に沿って振り返ります。

1. <お役立ち>

～コープあいちの様々な事業を通してみんなの想いをつなげます～

(1)食を中心に、生涯を通じて暮らしへのお役立ちができる事業を目指します。

- ① 宅配は仲間づくり推進と利用継続強化に取り組みました。仲間づくりは、コロナ感染症の拡大で個別訪問などの活動が制限され、Web、SNS、テレビCMを話題にし、予約登録者、eフレンズ登録者が増加しました。
- ② 店舗は地場商品の強化、商品普及活動、LINEの活用、GPR※の改善、自動発注システムの導入や店内作業改善に取り組みましたが来店客数が減り、来店者分析をもとにした対策が課題です。※GPR:粗利益率
- ③ 福祉の事業収入は予算を超えました。コロナの影響もあり利用者人数は予算未達ですが、黒字が維持できています。
- ④ 共済は、加入の年間目標を達成しました。



(2)生協のしくみを活かし、行政や地域の諸団体みなさんとも連携して、安心してらせるまちづくりに貢献します。

- ① 行政とは、コープあいちが10周年のお礼と共に情報交流を行いました。春日井市、西尾市、知多市と子育て等の支援協定を結びました。
- ② 豊明市との緊急生活支援協定の一環で豊明市、豊明市社協、ワーカーズコープあいちと連携し「まごころサポート便」をお届けしました。
- ③ あんきネットは2月に立ち上げた東三河で周知活動を展開し、学習会を通じた関係から利用者紹介にもつながりました。
- ④ 食育、子育てはオンライン学習会や動画の活動がすすみましたが、参加を広げるには、お知らせ方法に課題が残りました。



2. <SDGs>

～組合員・地域の皆さんと一人ひとりができることから始めましょう～

(1)地域での活動を積み重ね、世界の人々とともに、格差や貧困・飢餓のない社会の実現に貢献します。

- ① ユニセフ活動は、地域組織(愛知県ユニセフ協会)づくりにむけて他団体への呼びかけを開始しました。また、「ハンド・イン・ハンド」「お年玉募金」※など募金活動を行い組合員から募金が寄せられました。※「ハンド・イン・ハンド」「お年玉募金」:一人一人がボランティアとして参加するユニセフ募金活動
- ② 誰もができる国際協力活動としてアイキャン(ICAN)※と連携して書き損じはがきなどの取り組みを行いました。12月にはアイキャンが支援しているフィリピンの皆さんと組合員による「オンライン交流会」を開催し、フィリピンの現状を学び、お互いの活動交流を行いました。※アイキャン(ICAN):貧困・紛争・災害による影響を受けた子どもの能力向上や地域の環境改善に取り組む国際協力NGO



(2)ダイバシティや多様な人々の共生など、互いに認め合いながら一人ひとりが大切にされる社会をつくります。

- ① ダイバシティ&インクルージョンの課題(女性活躍推進・障がい者雇用・組織の高齢化・LGBTQ※、外国人雇用)について P J を立ち上げ推進しました。※LGBTQ:性的マイノリティ
- ② 新人事制度は 2023 年度からの導入をめざし検討しています。

(3)くらしの中でエシカル消費をすすめます。

- ① 宅配ではエシカル商品の特集ページを作成し「コープの森づくり」などの取り組みをお知らせし、店舗では地場野菜の取り扱いを強化しエシカル商品の利用を推進しました。
- ② 商品は利用普及を重点とした見直しや開発、新規取り扱いを検討し、宅配センター企画から朝採りとうもろこしなど店舗での取り扱いにもつなげました。
- ③ 障がい者の支援につながる「SDGs Re DESIGN PROJECT」※に参加し、コープ小幡とコープ日進店の2店舗で販売を行いました。

※SDGs Re DESIGN PROJECT:活動に賛同する企業や団体が未利用素材の提供、販売場所の提供、スキルでの支援、コンテストの企業賞での学生支援、障がい者の応援、実行委員として支援する非営利団体

(4)脱炭素社会・循環型社会・自然共生社会の実現に向けて、くらしのあり方を見直し、事業を変革します。

- ① CO₂ 削減は、4センターに太陽光パネルを増設し、電気自動車を 7 台導入しました。センターの要冷設備や店舗の冷ケース、LED など省エネ設備へ切り替えました。
- ② 環境活動はSDGsエシカルチャレンジ 2021 を3回行い組合員の参加を広げました。



(5)被爆・戦争体験の平和への想いを次世代に継承し、世界の人々への発信と対話を広げ、核兵器廃絶と世界平和の実現を目指します。

- ① 核兵器禁止条約の日本の批准を目指す署名活動への参加を広げるために Web 署名もできるようにしました。17,900筆が集まりました(2022 年 1 月 14日現在)。
- ② 誰でも参加できる平和活動として、「平和のぬりえ」「平和川柳」に取り組みました。
- ③ ぬりえ 333 作品、川柳 773 作品への参加があり、平和への想いを発信しました。

3. <チャレンジ>

～社会の変化に機敏に対応し、のりこえていきます～

(1)食の安全・安心をリードし、いのちとくらしにかかわる様々な分野で、社会的水準を高めるフロントランナーを目指します。

- ① 地元 JA と連携した大府センターの朝採りとうもろこしの取り組み事例は、他のセンターの地元JAとの取り組みに広がりました。新たな産物の利用では、生落花生・いちじく、チンゲン菜・人参・きくらげブロッコリーなど、ブロック内の生産者・JAと連携が広がり、事前に職員が商品を知り、組合員に伝え利用につながりました。
- ② コロナ禍で危機を迎えた観光農園を応援した岡崎駒立ぶどう狩り組合の旬のぶどう供給は、西三河ブロック内の宅配・店舗で3回実施し合計 250kgほどの利用で貢献することができました。
- ③ コープあいち公式 YouTube「ほこチャンネル」を開設し、ブロックで作成した商品動画を 10 月より配信しました。動画作成を通して、センター職員の学習・研修につながりました。

(2)一人ひとりのくらしに寄り添いながら、社会の変化に対応し、災害時にも助け合い支え合える地域社会をつくります。

- ① BCP は、感染症マニュアル作成や風水害訓練、地震発生後の対策本部立ち上げ訓練を実施しました。
- ② 安全運転推進課を設置し、安全運転教育を強化しました。



(3)技術の変化を積極的に取り入れながら事業革新を図り、新たな事業にチャレンジします。

- ① e-フレンズによるお知らせ強化やアンケートに積極的に取り組み回答率が上がりました。
- ② 新城市の中山間地でのドローン物流の実証実験に参加しました。



4. <みんなの力> 参加・共感・信頼

(1)人の力

- ① 「組織運営方針・組合員参加と運営のしくみ」見直しについて総代会で報告し、ブロック連絡会で協議しました。現状と改善理由、方向性の理解を得られるようにしていきます。
- ② オンライン学習会や動画で自宅から学ぶ機会を広げました。組合員集会室に大型モニター設置と Wi-Fi 環境を整え、組合員のオンライン活用が広がりました。
- ③ zoom を活用し採用活動や職員研修を実施しました。管理者研修や商品学習、節目研修、育児休職中の職員間で手軽に情報共有できるしくみをつくりました。
- ④ 2021 年8月大雨災害支援募金」に取り組み、8,298,613 円の募金が集まりました。
- ⑤ 「おうちで食習慣チェック」の取り組みは 752 名の参加でした。フォロー活動として「食生活相談会」を行いました。

(2)連帯の力

- ① 協同組合間の取り組みとして、JA あいち海部・JA あいち経済連と愛知米の初出荷式に参加しました。大学生協との連携は、4名の人事交流を実施し、経営が厳しい大学生協支援と組織の活性化をすすめました。
- ② 関連会社であるスリーC 連携や経営会議、下期管理者研修で LGBTQ 学習会開催等、次期幹部研修、役員と語る会、ダイバシティ交流会、他職場体験研修等、次世代育成の視点で新たな教育を行いました。

(3)願いをカタチにする力

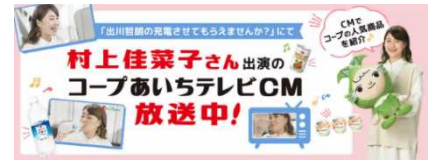
- ① ブロックモニター活動は全体で 700 名のモニター活動に取り組みました。取り組み後は、組合員と一緒に商品普及をしました。
- ② 「核兵器の非人道性」「平和の尊さ」「命を大切にすること」を伝えるために店舗でパネル展示を開催しました。「平和のぬりえ&ピースメッセージ」の作品も展示しました。
- ③ くらしをめぐる情勢への対応は、10 月 31 日に行われた衆議院選挙に向けて、「みんなで投票にいこう！」のチラシを配布し、組合員のみなさんに呼びかけました。核兵器の使用禁止と廃絶を求める活動として、「日本政府が核兵器禁止条約の署名・批准するとともに締約国会議へのオブザーバー参加要請文」を日本政府へ提出しました。

2 分野別の重点課題の振り返り

(1) 宅配事業は、新型コロナウイルス感染対応を基本としつつ、ポストコロナの中で変化するくらしの要望に応え、利用定着と仲間づくりを推進します。

○テレビ CM によるコープあいち紹介と連動した仲間づくりをすすめました

- コロナ禍で訪問活動や紹介活動が困難な中、テレビCMを活用。Web 広告や SNS と連動させて多くの資料請求を頂き仲間づくりが伸長しました。



○利用定着の取り組みとして e-フレンズの登録、予約登録が増えています

- e-フレンズの登録率は59.7%、日常的にe-フレンズを利用してご注文頂いている方は全体の約38%です。
- 予約登録率は62.3%で年間目標の65%に近づいています。
- 利用し続けられる注文のしくみを東海 3 生協で開発することが課題です。



(2) 店舗事業は、コロナ禍の不安とともにあるくらしからお一人おひとりの新しいくらしに向けて、組合員のくらしの変化に対応できるお店づくりをめざします。

○声を聞く取り組みでは、LINE アンケートを実施、商品人気ランキングでは1位になった商品にはポイント特典を付け商品普及にも取り組みました。

- 基本の運営4課題(鮮度・品揃え・クリンリネス・接客)の水準を上げるために競合店調査を行い改善につなげています。
- 宅配人気商品などコープの隠れた逸品の普及をこだわり POP や LINE、企画と連動させ取り組みました。
- コープ岩田は改装基準に沿ってリニューアルします。必要な投資を行いながら持続可能な店舗運営に向けて損益改善をめざしています。
- 特別対策店のコープいわくらは、ブロックや組合員と連携して地域訪問やダイレクトメール発送など行いました。これまで看板の取り換えや売り場変更など改善をすすめましたが、厳しい経営結果となり、2月理事会で特別対策店の基準に基づき閉店を決定しました。



(3) 福祉事業は、さらに進む超高齢社会に向け、事業の拡大や投資、処遇改善が行えるよう、安定した黒字経営をすすめます。

○福祉では生協10の基本ケアの取り組みをすすめています

- 利用者アンケートとその後の訪問活動でご家族やご本人の要望に応えることを大切にしています。
- コロナ禍により実技学習等が旺盛にはできませんでしたが、推進プロジェクトを設置し、取り組みや課題の確認と共有化をすすめました。



- ケアコープ豊橋の事業展開は実施すべきサービスの協議をすすめました。名古屋市の地域密着型サービス、ヘルスケア事業の検討を行います。

※地域密着サービス：住み慣れた地域で生活できるように支援するサービス

(4) 暮らしのサポート事業、共済事業は、事業間の連携を活かした情報発信を大切に、気軽に相談でき、暮らしに役立つ存在として取り組みをすすめます。

- 夕食宅配は利用者要望から季節の催事弁当や医療・介護食(おせち料理も)、冷凍おかずに取り組み利用が拡大しました。担い手の高齢化による体制の安定化と増員が課題です。
- モーニングコープは独自商品としてコープ宅配利用者へ「鮮魚ボックス」の紹介を行い利用者増に貢献しました。
- 葬祭は葬儀の小規模化から手数料収入は減少しましたが件数増と納骨堂の申込増で収入が増加しました。
- 共済事業は 2 年連続でコープあいち全体の加入目標数を達成しました。《たすけあい》ジュニアコースの満期延長を案内し、インターネット加入など Web 活用もすすめました。



(5) 商品活動・組合員活動は、コロナ禍でもすすめられる組合員活動を組合員と検討し、すすめていきます。

○商品活動の取り組みとしてモニター活動や動画作成をすすめました。

- ブロック単位で商品モニター活動をすすめ声を活かしなが普及につなげています。
- コープあいち公式ほこチャンネルを YouTube で配信しながら商品について楽しく分かりやすく伝えるようにしています。
- 食育、子育てはオンライン学習会や動画の活動がすすみました。



○「組織運営方針・参加と運営のしくみ」見直し議論と「<支援>組合員参加を支援する制度・しくみ等」の充実を検討。ブロック連絡会で意見を出し合いました。

新たなしくみをお知らせしながら参加の広がりを作っていくことが課題。

(6) 管理分野は、リスク対応し、事業を継続できる組織づくりをすすめます。

○感染症マニュアル作成や風水害訓練、地震発生後の対策本部立ち上げ訓練を実施しました。

○ダイバシティ推進の取り組みをすすめました

- 女性活躍、障がい者雇用、組織の高齢化、LGBTQ・外国人雇用をテーマに職員でプロジェクトを立ち上げ取り組みました。
- Web も活用しながら研修、学習会、交流会をとおして誰もが働きやすい職場環境づくりに取り組みました。

※ダイバシティは「多様性」、インクルージョンは「受容」を意味します。ダイバシティ&インクルージョンとは、性別、年齢、障がい、国籍などの外面の属性や、ライフスタイル、職歴、価値観などの内面の属性にかかわらず、それぞれの個を尊重し、認め合い、良いところを活かすことです。

※LGBTQ：(性的マイノリティ)LGBTQ とは、レズビアン(女性同性愛者)、ゲイ(男性同性愛者)、バイセクシュアル(両性愛者)、トランスジェンダー(生まれた時の性別と自認する性別が一致しない人)、クエスチョニング(自分自身のセクシュアリティを決められない、分からない、または決めない人)など、性的マイノリティの方を表す総称のひとつです。

2022年度の方針(案)

1 暮らしを取り巻く動き

(1) ポストコロナ

コロナ前の経済水準への回復は2022年度以降と言われています。22年度の前半は、オミクロン株の感染拡大により、経営への影響が残ると思われます。コロナ感染症拡大から2年が経過し、益々、雇用情勢は厳しくなり、完全失業率は高止まっています。残業減や一時金の低下で生活防衛意識が一段と高まり、消費の落ち込みが顕著となってきます。さらに社会的弱者に大きな影響を及ぼし貧困と格差の拡大が危惧されています。

(2) 社会の変化

三密を回避する接触制限、在宅勤務、オンライン会議などによる活動拠点の変化などニューノーマルな生活様式が浸透しました。今後も地方の活性化の動きが強まると思われます。気候変動により2050年カーボンニュートラルの必要性が高まり、自然災害への懸念の増大、石油、輸入食品・原料・飼料の値上げがすすんでいます。人口減、少子化、高齢化が一層進み、社会的孤立のリスクが高まることも予測されますが、一方で人生100年時代に対応した生涯現役・生涯活躍社会の実現が求められています。最低賃金は3%引き上げとなりました。改正育児・介護休業法の22年4月施行で、男性の育児休暇取得が推進されます。

(3) 政治をめぐる情勢

新しい内閣は信頼と共感を得られる政治が必要だとして「新時代共創内閣」を掲げていますが、今後の具体的な施策には注視していくことが求められます。2月の核兵器禁止条約締結国会議にNATO加盟国のノルウェーとドイツがオブザーバー参加することとなり、「核兵器のない世界」にむけて日本の核兵器禁止条約批准や核保有国の動きに注目が集まります。

(4) 流通業界の動き

22年前半は巣ごもり、在宅関連消費は堅調にすすむと思われます、キャッシュレス、セルフレジなど非接触型サービスの広がり、くらしの厳しさから価格志向が強まっています。あらゆる企業が宅配事業に進出する中、22年度大手スーパーが最新のAIとロボットを駆使した大型自動倉庫の建設を進め、次世代型ネットスーパーの開始に向けて準備をすすめています。「働き方改革」について、一部スーパーで年始を休業にするなど見直しが行われています。

(5) SDGsの広がり

SDGsの取り組みは世界的に浸透し、具体的行動を起こすことが求められています。消費行動は変化し、エシカルな消費への関心が高まります。経済は使い捨て経済から循環経済に移行し、生活者の関心もモノの豊かさから心の満足にシフトすると捉えられます。2030年までに解決・達成すべき目標に向かって、より多くの方々が自分のできることを考え、早急に行動することが求められています。

2 基 調

コープあいち 2030 年ビジョン、第 4 次中期方針の 2 年目にあたり、22 年度以降のポストコロナを見据え、事業・活動に取り組んでいきます。

- 基調1. 2030 年ビジョン(私たちがめざしてきたことを、SDGsに沿ってさらにすすめます)の実現をめざします。
- 基調2. コロナ後に向けて生協の役割を明確にし、暮らしへのお役立ちを広げていきます。パートナーシップで安心してらせる地域づくりをすすめます。
- 基調3. 組合員、役員、職員の全員参加で 2030 年を見据え改革し、チャレンジし、コープあいちのファンを増やします。

3 重点課題について

○2022 年度の重点ポイント

- 1 組合員(仲間づくり)、利用者づくり活動はコープあいち全体の最重点課題とし、全分野ごと(後方も含め)の連携を強め総力を挙げてすすめます。宅配は伸長、店舗事業は赤字削減、福祉事業は安定的黒字経営をめざし、改善に取り組みます。
- 2 商品活動は、改めて「あいちを食べよう、日本の食をたいせつに！」大運動を強化し、組合員の参加が利用につながる取り組みをすすめます。組合員活動は「参加と運営のしくみ」の見直しと新たな取り組みの推進で再構築をめざします。
- 3 暮らしの厳しさに向き合い、地域、行政、他団体との連携を強め、安心してらせるまちづくりに貢献します。

1. <お役立ち>

～コープあいちの様々な事業を通してみんなの想いをつなげます～

(1)食を中心に、生涯を通して暮らしへのお役立ちができる事業をめざします。

- ① 仲間づくりは「商品」を軸として、生協の良さを伝え、コープあいち全体で年間 3.5 万人の新規加入と純増 1.5 万人、経常剰余率は 1.5%目標をめざし組合員の期待に応えていきます。※経常剰余率:経常剰余÷総事業高
- ② 宅配は、利用定着の取り組みと重点エリアの仲間づくりを強化します。
- ③ 店舗は、持続可能な事業への転換に向け赤字削減に取り組みます。
- ④ 福祉では、引き続き人材確保、安定的な黒字経営を目指し、生協 10 の基本ケアのレベルアップをめざします。
- ⑤ 共済は学生総合共済や新社会人コースなどたすけあいのしくみで生涯を通じた保障の充実をお知らせし共済を通じた生協ファンを増やします。

(2)生協のしくみを活かし、行政や地域の諸団体みなさんとも連携して、安心してらせるまちづくりに貢献します。

- ① 防災支援協定は改めて協定内容を確認し、いつ災害が起きても対応できるようにします。子育て支援協定は全行政区に広げることを目標に締結をすすめ、連携することでコープあいちの事業と活動を広めます。
- ② 総合力で組合員の暮らしをささえワーカーズ、あんきネット、くらしたすけあいや行政、地域の諸団体と連携し事業・活動を通じて安心してらせるまちづくりに貢献します。

2. <SDGs>

～組合員・地域の皆さんと一人ひとりができることから始めましょう～

(1)地域での活動を積み重ね、世界の人々とともに、格差や貧困・飢餓のない社会の実現に貢献します。

- ① ユニセフ活動の推進と地域組織(愛知県ユニセフ協会準備会)をつくり、愛知県ユニセフ協会設立に向け、計画に沿ってすすめます。
- ② 商品利用を通じた「レッドカップキャンペーン」や「ディルマ紅茶スクールバッグ提供支援プロジェクト」など「寄付付き」商品の意味や価値をつたえ、利用につなげます。
- ③ 国際協力活動としてアイキャン(ICAN)と連携して書き損じはがきや現地との交流など、フィリピンの子どもたちを応援する取り組みを広げていきます。

(2)ダイバシティなど、互いに認め合いながら一人ひとりが大切にされる社会をつくりまします。

- ① 新人事制度づくり、ダイバシティ&インクルージョン推進を強化します。ベテラン職員の仕事づくりなど、職員の活躍をサポートする制度をつくり、職場運営を改善します。
- ② キャリアアップにつながる教育・研修を強化し、次世代育成をすすめます。

(3)くらしの中でエシカル消費をすすめます。

- ① 商品案内や店舗の売り場で商品の価値や取り組みの意義を伝え、エシカル商品普及の取り組みをすすめます。エシカル商品やエシカル消費について学び、普及、啓発の取り組みをすすめます。
- ② 「あいちを食べよう、日本の食をたいせつに！」大運動では、県内主要JA、地元産地・生産者・メーカーとの交流を発展させ、県内産物の利用を広げます。

(4)脱炭素社会・循環型社会・自然共生社会の実現に向けて、くらしのあり方を見直し事業を変革します。

- ① 「2030年ビジョン」に基づいて「コープあいち環境政策」の見直しを検討します。
- ② 容器・包装におけるプラスチック使用量の削減、紙資源の使用量の抑制、食品ロス削減については、数値目標を定め東海コープ事業連合とも連携しながらすすめます。
- ③ 環境問題について、くらしの中で環境について関心をもっていただけるよう、「SDGsエシカルチャレンジ 2022」を継続的に行いながら、同時に逼迫している環境問題について組合員、職員の学習会なども行っていきます。

(5)被爆・戦争体験の平和への想いを次世代に継承し、世界の人々への発信と対話を広げ、核兵器廃絶と世界平和の実現を目指します。

- ① 引き続き、核兵器禁止条約の日本の批准を目指し署名活動をすすめます。また、次世代につなぐ平和活動(戦争体験、被爆体験の継承)の具体化としてデジタルアーカイブ(デジタル保存・公開)を通して学習会をすすめます。
- ② 平和の取り組みを広げる企画として、「平和のぬりえ&ピースメッセージ」、「平和の川柳」等を取り組みます。

3. <チャレンジ>

～社会の変化に機敏に対応しのりこえていきます～

(1)食の安全・安心をリードし、いのちとくらしにかかわる様々な分野で、社会的水準を高めるフロントランナーを目指します。

- ① 「あいちを食べよう日本の食をたいせつに！」大運動として、愛知県をはじめ東海3 県の商品企画を強化し、あいち県産の商品が意識できるような取り組みを通して、県内産商品について職員が学習・理解し組合員に広げていきます。
- ② ブロックごとに地域とのつながりをすすめ、県内産物を中心に新たな地元産物の産地開拓や商品開発、利用普及を組合員、生産者、メーカー、ブロックが一体となって取り組みます。地元産地の商品を利用することで、地場産地や地場の産業や生産者を守り応援していきます。同時に、国内の生産と消費・食料自給率の向上に関心が持てるよう、オンライン学習や動画作成などにもチャレンジします。

(2)一人ひとりのくらしに寄り添いながら、社会の変化に対応し、災害時にも助け合い支え合える地域社会をつくりまします。

- ① 大規模災害や様々なリスクに備え、BCP(事業継続計画)の改定や BCP 訓練(地震や風水害など)を定期的に行います。
- ② 地域とのネットワークづくりはブロックを中心にすすめていきます。また、SDGs助成制度の開始より、助成団体とのネットワークづくりをすすめ、日常的に連携できる関係、必要な時に助け合える関係を構築します。

(3)技術の変化を積極的に取り入れながら事業革新を図り、新たな事業にチャレンジします。

- ① コープ宅配では、より利用しやすいしくみの改善を東海コープ事業連合と連携し改善します。
- ② コロナ禍ですすんだ Web を使った学習会などの活動を組合員に広めます。ミニ学習会、リモート産地見学・工場見学、ライブ学習会など組合員が自主的に行えるようにフォローをしていきます。

4. <みんなの力>

参加・共感・信頼

(1)人の力

- ① 「組合員参加と運営の見直し」について、2022 年総代会で確認し、2022 年度は2023 年度からの運用にむけての準備期間とします。
- ② モニター活動など柱1の利用を通じてひとりでも参加できる活動を広め、柱2の身近な地域での活動や柱3の総代活動のお知らせをしていきます。感染対策を徹底し、「コープひろば」の再開を検討します。「オンラインコープひろば」や少人数での開催など、工夫をして開催を検討します。
- ③ 4つのダイバシティ課題推進を継続します。人事制度との連携や学習を継続し、職員がダイバシティ推進を実感でき、お互いに尊重し協力しあえる職場をつくりまします。
- ④ 次世代育成は人事異動を通して経験を積み、現地で直接学ぶことや Web、動画も活用し、商品学習、節目研修、次期経営幹部研修、他職場体験研修等を計画します。学び合い・教え合いの実践を通して次のキャリアを見据え職員がチャレンジしたいという

思いを大切に主体的に学べる組織づくりをめざします。

- ⑤ 安全運転センターの発展的解消に伴い、コープあいちとしての安全運転教育を職場に定着させ、新城センターに新設を検討している運転研修施設を活用して、安全運転教育を強化します。

(2)連帯の力

- ① 農業を軸とするネットワークを生産者や JA などと連携し、生産者との顔の見える関係を強化し、栽培自慢、はぐくみ自慢の商品の価値を広げ普及します。引き続き、関係会社スリーCの農業事業を支援し、職員や組合員の「収穫祭」などの体験やボランティア活動を通じて農業の大切さを広めていきます。
- ② 大学生協の支援とJA、医療生協、ワークスなどと協同組合間連携を強化し、地域づくりや人材交流をすすめます。

(3)願いをカタチにする力

- ① 広報広聴・デジタル推進部を立ち上げ、組合員とのコミュニケーション強化(声の循環・組合員活動・商品活動など)と SNS を活用した、くらしに役立つ情報を提供し、組合員の利用と運営参加、仲間づくりの推進を図ります。
- ② モニター活動など利用を通じた様々な組合員の声に応じて、見える化し、組合員と共有化し、双方向のコミュニケーションを大切にしていきます。
- ③ 組合員の参加を広げるため SNS を通して組合員発の情報発信を強化します。
- ④ 広報について Web サイトの整理にむけてリニューアルも検討します。

【2030 ビジョン】

ありがたい姿 めざすものを実現するために大切にしたいこと

くらしが豊かに花開くために3つのこととみんなの力を大切にします



第13回通常総代会に向けて

1 第13回通常総代会の日時・場所

日時：2022年6月13日(月) 10時30分から12時30分まで
場所：愛知県産業労働センター(ウインクあいち) 大ホール



変異株による新型コロナウイルス感染症の収束見通しが不透明な中、通常総代会を迎える可能性があります。

それぞれご事情を考慮されたうえ、直接会場に行くことは控えたいと思われる場合は、書面による出席が可能です。

※託児については直近の情勢を踏まえて判断します。
安全性が確保できる状況にあるのかどうか、5月の議案検討会で最終判断のお知らせをします。

この今も闘っている
医療現場のためにも。



2 通常総代会の運営に関わって

(1) 通常総代会の運営について

- ① 通常総代会では、総代のみなさんから議案について発言いただく時間を設けます。
 - 発言の方法は、当日口頭で発言いただく他に文書による発言があります。
 - 発言の内容は、総代のみなさん同士で共有するために、どの議案に対するどのような意見であるかあらかじめ定められた書式に沿って行います。
 - 口頭または文章による発言はとりまとめた上で総代会当日に資料として配布します。総代会では、これら総代のみなさんの意見を踏まえて議決をいただきます。
- ② 具体的な採決方法は、「反対」「保留」「賛成」の順番で行います。
 - 「保留」やいずれにも意思表示をしない場合(棄権の扱い)は、賛成ではないという点で「反対」と同じ意味になります。
 - 総代会議や5月の議案検討会で積極的に意見交換し、議案についての理解を深め合い、総代のみなさんに賛成していただけるよう努力していきます。
- ③ もしも大きな自然災害などが発生した場合は、ホームページにて開催の有無をお知らせします。Web サイト(総代の部屋)に登録している方へはメールで案内をいたします。

(2) 通常総代会の運営への参加について

- ① 議長・議事運営委員候補を募集しています。
- ② 総代会の議長は、会場に出席した総代の中からその都度選任します。総代会の運営は、定款や様々な規約を踏まえて運営することが求められるため、あらかじめ相談しながら当日に向けて準備をしていきます。「候補」として一緒に準備いただける方は、お願いします。コープあいち通信でも呼びかけを行います(3/11締切)。
- ③ ブロックが偏らないように順番にお願いしています。今年は、尾張東ブロックと尾張南

ブロックから議長、議事運営委員(議長をサポート)を1名ずつ呼びかけ、「総代会を準備する会」として相談をすすめていきます。(なお、総代会を準備する会は4月1日(金)を予定しています)

3 付議する議案について(総代会での議決事項) 案

第1号議案 2021年度活動のまとめと事業報告書及び決算関係書類の承認の件

第2号議案 2022年度活動方針と予算及び事業計画の設定の件

第3号議案 役員選任の件

第4号議案 役員報酬決定の件

第5号議案 組合員の除名の件(特別議決事項)

4 今後のすすめ方

5 月地域別議案検討会の日程(案)

(1)日程 4 月下旬～5 月上旬

(2)今回の総代会議で総代のみなさんから出されたご意見を踏まえ、第13回通常総代会議案書(案)としてまとめたものを提案します。



© やなせたかし

数値結果(2022 年 1 月度 まで)

	金額	予算比較	前年比較
コープ宅配	423億2千万円	106.7%	98.0%
店舗	79億8千万円	100.2%	93.0%
福祉事業収入	20億2千万円	100.6%	102.4%
総事業高	549億5千万円	105.5%	97.7%
経常剰余金	14億6千万円	333.2%	71.0%

※2021年度はコロナ禍が収束し、経済が以前の状況に戻ることを前提とした予算としました

組合員への還元 -組合員みんなの利用で生み出した剰余金活用-

○宅配

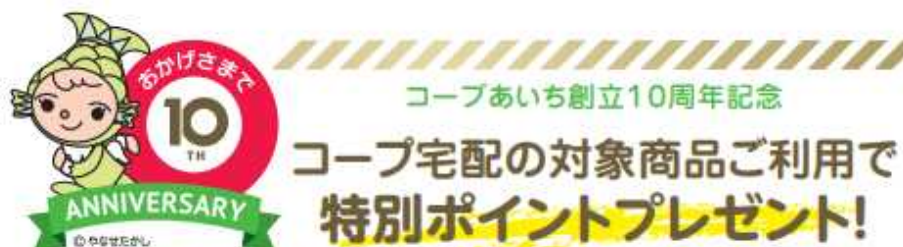
- ① 2021年3月4週～2022年1月3週(4月度～1月度の10ヶ月間)の宅配利用高に対して0.5%分のポイントを還元します。
- ② 2022年1月2週～2022年3月3週までの第4四半期に「20%以上還元企画」を実施しています。



○コープあいち創立10周年記念企画に取り組みました

コープあいちは2020年に10周年を迎えました。

コープ宅配では、対象商品の利用で特別ポイントをプレゼント。
店舗では、記念企画を開催しました。



資料2.「コープあいち組織運営方針」と「組合員参加と運営のしくみ」について

- 2021年度第4回ブロック連絡会で「コープあいち組織運営方針」および「組合員参加と運営のしくみ」について報告をしました。
- 2022年4月開催予定の2022年度第1回ブロック連絡会では、総代会で提案する中身など、規程を含めて全体を確認していく予定です。
- **2022年6月13日「第13回通常総代会」コープあいち組織運営方針(改定)を提案します。**
- 2022年8～9月「オリエンテーション」を行い新しい規程を確認します。
- 2023年3月21日～新しいルールでスタートします。

第4回ブロック連絡会で報告した「コープあいち組織運営方針」および「組合員参加と運営のしくみ」について抜粋して共有します。

コープあいち組織運営方針

コープあいちは誰もが加入・利用・参加できる地域に開かれた生協であるために「組織運営方針」を定めています。また、「組合員が主人公」の生協づくりをすすめるために、「出資・利用・運営」の原則に沿って、組合員が運営に参加するという仕組みを 3 つの柱で整え、組合員の運営参加を保障しています。

引き続き、そのことは基本にし、コープあいちのめざす事業・活動を実現するために暮らしや社会の変化に対応しながら改善や見直しを行っていきます。

改めて、より多くの組合員の参加を広げることを生協全体の目標として明確に位置付け、組合員や地域みなさんに伝え広げていくことをすすめます。

基本視点

誰もが加入・利用できる、地域に開かれた生協になります

1. 愛知県に住む誰もが加入でき、どの地域でも存在が見え期待される生協になります。
2. 「みんなちがって、みんな大切」お互いを思いやり、配慮しあえる生協になります。
3. 暮らしに応える事業と人のつながりで、生涯組合員として参加できる生協になります。
4. 消費者組織として自立性をたもち、出資金を大切にします。
協同事業の成果の還元として地域貢献できる生協になります。
5. 地域に開かれた生協をめざし、愛知県を 7 つに分けたブロック単位の運営で、組合員が身近なところで楽しくいきいきと活動し、多様な参加が広がり、「つながり」づくりがすすむようにします。

「組合員参加 3 つの柱と支援」

柱1 利用を通じて声をだす仕組み

私たち一人ひとりが、利用する場で直接声を出す(参加する)ことで事業を改善し続けます

1. 毎週の配達やお店など、利用の場で要望や気づいたことを気軽に出し、私の声で利用しやすい事業に変え続けます。愛知の豊かな農水畜産物、地場商品を大切にして、生産者・メーカーや地域みなさんと連携し、「あいちを食べよう日本の食を大切に！大運動」を継続してすすめていきます。
2. 職員は日常的に正確・迅速な情報提供を行い、組合員の声をしっかりと聴き応え、「つなぐ」役割を果たします。利用に関わって直接意見が出し合える「場」や組合員の声が形にできる職場風土をつくります。
3. 組合員と生産者・メーカーの交流をすすめ、東海コープ事業連合の場に組合員の声を反映するプロセスを整備します。

柱2 身近な地域で関心に基づいて組合員活動に参加する仕組み

身近なところで私の関心に基づくつながりと活動を多様に広げ、私のまちに安心と元気を広げます。

1. 安心してらせる地域づくりを地域みなさん(行政、地域の諸団体等)と一緒にすすめます。くらしに関わる様々な組合員活動を通じ、地域でのつながり(ネットワーク)に参加することをめざします。
2. 身近な地域で組合員の自主・自発の活動が広がるようにしくみをつくります。幅広い世代の誰もが気軽に参加できるように工夫し、楽しくゆるやかに学びあいの輪を広げます。
3. 商品を通じた活動をブロック毎に広げ、生協の良さや価値をお知らせする取り組みをすすめます。
4. 地域の組合員と理事会をつなぐ場をブロック毎に設け、組合員の声を持続可能な事業や活動に生かします。
5. Web を活用した新しいつながりを広げます。

柱3 意思決定に参加する仕組み(総代制)

民主的代議制としての総代制で、多様な地域の実情とくらしの願いを反映し「組合員が主人公」の組織と事業文化をはぐくみます。

1. お互いさまの気持ちで誰もが総代を交代で担い、生協の意志決定に代表で参加します。
2. 理事会は総代会決定を執行するプロセスを、わかりやすく明確にします。
3. 理事会は、透明性と公開性を高めます。

<支援> より多くの組合員の参加が広がるように制度を拡充します

1. 情報(広報・広聴)の拡充と補助制度を整えます。組合員活動に参加しやすい条件を整え、組合員活動に関わっていない方へのお知らせも強化し参加の場づくりを広めます。
2. 身近な地域でつながる、相談できるしくみを充実し、参加や地域の活動を支援します。
3. 事業・活動のサポートを行うコープサポーターの業務を可視化して、組合員に広げます。

「組合員参加と運営のしくみ」

「参加と運営のしくみ」を通じて組合員を主人公にした生協をつくりましょう。組合員一人ひとりの願いを実現するため、運営へ主体的に参加する人を広げることが大切です。

1. これまでの経過

コープあいちは合併後、2013 年 4 月 21 日より、新しいしくみがスタートしました。

しかしながら、継続して検討をするしくみ・制度が残ってありました。

スタートして活動する中で声を出し合い、その都度、軽度の見直しを行い身近な地域で自主自発の活動が広がるように工夫しながらすすめてきましたが、大きく社会情勢やライフスタイルが変化してきたことで、結果的には参加者が固定化するなど、広がりをつくることができませんでした。

コープあいちが誕生して 10 年、この間、組合員活動の広がり、参加の仕方、ルールなど組合員のみなさんから色々なご意見を様々な場でいただき、より取り組みやすい活動の仕方へと少しずつ見直ししながらすすめてきました。

2019 年度にはこの先 10 年も持続可能な運動(事業・活動)であるためにはどうしたらよいか、これまでをふりかえり、実態と課題を出し合ってきました。**活動を広げるために何が必要かを組合員と相談し、活動に参加していない方の視点も大切に「楽しくゆるやかな」、敷居を低くして誰もが参加しやすい活動への転換をしていくことに見直すことにしました。**

2020 年には新型コロナウイルス感染症の拡大により、今までの活動(集まっていた活動)のスタイルでは活動ができなくなり、活動のあり方や方法を変えていくことが求められ、あらたな取り組みにチャレンジしてきました。

2. 考え方

- (1) 組合員活動に参加する組合員を広げていくことを大切にし、多様なライフスタイルに合わせた参加の方法を充実・拡充し、運営参加を広めていきます。
- (2) 「生協」「商品」「暮らし」に関わるまなびが充実するように、組合員の参加を支援していきます。
- (3) 広報を充実・拡充させることで組合員へのお知らせ(情報)を強化します。Web 環境については事業・活動全体を通したしくみを再構築します。

1. 柱1 利用を通じて声をだすしくみ

組合員の加入動機のほとんどは商品やサービスの利用です。その商品やサービスをご利用頂いた際に感じたことなど様々な声を出していただく機会を拡充し、声にこたえ、事業に反映させていくしくみです。より多くの組合員の参加が広がるようにまず一人一人の声を聴くしくみを整えながら参加できる機会を広げます。

2. 柱2 身近な地域で関心に基づいて組合員活動に参加するしくみ

地域でより参加しやすいルールを作り、地域で活動するみなさんの声を政策に生かすために直接理事会に声が伝わるブロック協議会をブロックごとに設置しすすめます。

3. 柱3 意思決定に参加するしくみ(総代制)

総代は組合員の代表です。多くの組合員が交替で役割を担えることが大切です。総代にかかわる会議については役割を果たせるように、情報や参加のしやすさなどより多くの方が会議に参加できる条件づくり(SNS を使ったりリモート会議など)を整えます。総代会議決に意思をもって賛否が出せるように学びや気づいたりできるような場を充実させます。より多くの組合員が適切に役割を担いあえるよう、総代経験者の方には情報提供や意見を出せる場の設置を検討します。

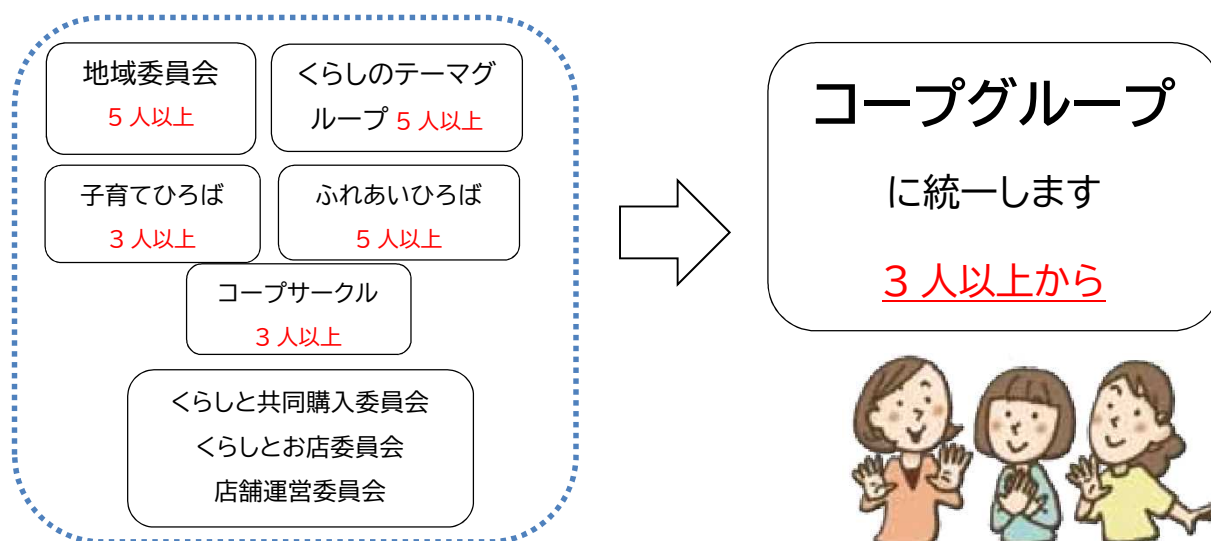
4. <支援>組合員参加を支援する制度・しくみ等

「組合員活動に関わる費用補助の考え方」

組合員が協同して暮らしを守り、住みよいまちづくり活動をすすめるために、組合員活動に取り組みとときの「組合員活動に関わる費用補助」は「活動に対する手当(報酬)の支給」ではなく、「組合員の家計からの持ち出し分を少なくする」という考え方で補助します。

主な変更点

○活動グループについて



○組合員の声と理事会を繋ぐ場として

「ブロック協議会」を設置します



○活動費用補助の考え方について

「活動に対する手当(報酬)の支給」ではなく、「組合員の家計からの持ち出し分を少なくする」という考え方のもと整理しました。

メンバー個人への活動費補助



グループへの活動費補助

参加と運営のしくみの変更点

		項目	現在のしくみ	新しいしくみ
しくみについて	コープグループ	形態について	柱1「くらしと共同購入委員会」「くらしとお店委員会」「店舗運営委員会」 柱2「地域委員会」「くらしのテーマグループ」「コープサークル」 身近な地域での支え合い活動「子育てひろば」「ふれあいひろば」	いろいろあった活動形態を「コープグループ」に統一することにより、新しく始めようとする方にとってわかりやすくなることと、今までできなかったグループでも自主企画費用補助を受けられるようになります。
		設置について	組合員活動ハンドブックには明記していませんでした。	登録グループ数について 登録グループ数の制限はありませんが、活動できる範囲内での登録になります。 ブロックを超えての登録について ・コープあいちの合併の経過の中でつくられたグループや、転居などによりやむを得ない理由がある場合は、ブロックを超えての活動もできます。 ・新しく立ち上げるグループは、基本的には所属するブロック内のメンバーの登録を呼びかけますが、身近な地域で「支え合える・助け合える」関係を大切にしていることをきちんとお伝えして、グループをつくっていくようにします。
		構成について	柱1「くらしと共同購入委員会」「くらしとお店委員会」 →人数の下限はありません。 柱2「地域委員会」「くらしのテーマグループ」→5人以上 (地域委員会は3人以上で準備会が設置できます) 「コープサークル」→3人以上 身近な地域での支え合い活動「子育てひろば」→3人以上 「ふれあいひろば」→5人以上	3人以上での登録が可能になります。
	ブロック協議会	設置について	現在のしくみではありません。	2019年の通常総代会でいただいた意見から「理事会と組合員の声をつなぐ場」としてつくりました。
	ブロック内の組合員交流の場	設置について	組合員交流の場としては「ブロック連絡会」「ブロック交流会」があります。	組合員活動の参加者を広げるために、ブロック内の組合員活動の情報交換や交流、報告、相談などができる場として設置します。 学習会も開催できます。
費用補助について	グループ運営補助	定例会の開催に関わる補助について	会場費・資料代・託児費用などの実費を補助します。	現在の補助はそのままです。 ※現在の通信費である切手代やはがき代(領収書の出るもの)も補助が出るようになります。
		自主企画費用について	年間上限金額の上限は50,000円です。	年間上限金額の上限は30,000円になります。 ※交通費補助は各グループから補助しますので、自主企画費用補助の中(3万円)には含まれません。
		通信費について	人数×600円(半期)	現在の通信費は廃止になり、連絡費として1グループに1,000円/年補助します。
	メンバーへの補助	交通費補助	補助のルールに則り実費補助	補助のルールに則り実費補助 ※複数のグループに参加できる方とできない方への支援の平等性から、交通費補助は2グループまでとなります。 ※初めの提案では、1人上限1,000円/月の提案でしたが、いただいた意見から、地域の交通機関には違いがあり、ブロック内の移動でも1,000円を超えることがあることから、実費補助に変更しました。
		会議・活動費補助	基本1時間30分を超える場合は700円補助 4時間を超える場合は1,000円補助	会議・活動費補助はなくなります。 ※行政や他団体などへの役割を持った参加やコープあいちが依頼するものについては今まで通りの補助です。

資料3. 組合員理事の役割について

理事の任務は、総代会で決定された事業計画・予算にしたがって生協を運営し、事業を執行することにあり、主に3つの役割があります。

- ①組合員のくらしの願いを大切に、組合員の視点で理事会の意思決定に参加します。
組合員としての経験を活かして、コープあいち全体の事業・活動を考えて幅広い組合員視点で生協の基本政策や重要な意思決定に参加します。
- ②ブロックの活動や理事会の設置する委員会、行政・他団体の活動に分担して参加します。
組合員や地域の方の声を聴き、コープあいちの活動や考え方をお知らせし、行政・地域とのつながりをつくっていきます。
- ③業務執行・財産管理の状況を監視・監督します。
理事会は、生協の財産管理を含む業務執行全般に関する重要な事項を決定するとともに、常勤理事による業務執行の状況を監視・監督する機関であり、理事はこの監視・監督が基本任務となります。

資料4. 総代の商品モニターについて

総代活動をより魅力あるものにするために、総代限定企画として昨年11月に商品モニター（無洗米愛知のコシヒカリ）を実施。合計で304名の総代のみなさんが参加しアンケートにご協力いただきました。

9割以上の方から「非常によかった」「よかった」との評価をいただき、6割以上の方が「予約登録をしたい」「利用したい」との声をいただきました。総代の商品モニターは次回、7月を予定しています。



■無洗米は美味しくないイメージだったが、浸水時間をしっかりとれば、もちりとして美味しかった。何より洗わないのが時短で助かります

■水が冷たい冬に洗わずに済むのは楽
ちん♪おまけにヌカ水を流さず水を節約でき環境にも優しい。私もSDGsをひとつ実践できる気がします。

お米を巡る情勢は大きく変化しています。

2021年産の米価は、これまでにないほど下落しています。

お米農家の経営は厳しさを増しています。

一人当たり年間消費量は40年前の半分に減少し、お米が余る状況が続いています。そこに新型コロナウイルス感染症の拡大で外食消費が無くなる等、お米余りに拍車がかかりました。2021年産米の生産者からの買い上げ価格は銘柄によっては30%も値が下がり「再生産できる価格」を下回っています。こうした状況では、お米づくりを辞めてしまう農家が増えることが懸念されます。

コープあいちでは、栽培自慢・産消提携のお米の取り扱いを通じて、地元をはじめ全国各地の生産者・産地と「生産と消費」を結ぶことを基本に、組合員のみなさんに利用を呼びかけます。

※アンケートの詳細データやいただいた声については4月発行の「声をカタチ」にて紹介させていただきます。

① 換気をする



病気予防の基本として、換気を行います。新鮮な空気を取り入れ、衛生的な環境を守り、感染症を予防します。

② 床に足をつけて座る



日常生活がリハビリという考えの下、足を使って立ち上がる習慣を身につける中で、トイレやお食事など自分でできることを増やします。

③ トイレに座る



トイレでの排泄は人間が守るべき尊厳の基本と考えます。布パンツでの暮らしをサポートします。

④ あたたかい食事をする



ご自身で調理したり盛りつけたり、親しい方と楽しく食べることで社会性を保ちます。誤嚥防止のために、食事前には口の体操も行います。

⑤ 家庭浴に入る



湯船にゆったりつかる習慣は日本の素晴らしい文化です。生活リハビリの効果を生かして家庭浴への入浴を大切にしています。

⑥ 座って会話をする



安心感を与えられるように座って会話をします。共に時間を過ごし、日々の見守りを行います。

⑦ 町内におでかけをする



慣れ親しんだ地域に出かけることは社会性や精神的な豊かさを保つために大切なことです。これまでの生活リズムを維持できるようにします。

⑧ 夢中になれることをする



自分らしく、好きなことに夢中になれる機会や、居場所づくりに取り組みます。

⑨ ケア会議をする



自分の街で住み続けられるように、社会性と暮らしを守るケアプランをつくれます。職員はチームでケアに取り組み、ご家族を含めサポートします。

⑩ ターミナルケアをする



元気な時から人生の最期まで、地域との連携でご自宅でのターミナルケアをサポートします。